

## 仁王門

聖天堂（本殿）にもっとも近い門が仁王門で、門の左右に立つ仁王像がその名の由来です。仁王は、怒る神様で、仏教における守護神です。仏教寺院の入り口に寺院を守る形で立っているのが一般的です。1658年に彫られたもので、門も同時期に建設されたものと考えられます。仁王門は、台風の際に倒れてきたイチョウの木に潰された後、1891年に再建されましたが、2体の仁王像は損害を免れました。

この広い木造の門には隅棟と切妻屋根があり、面積75平方メートルを覆っており、それを12本の柱が支えています。軒には、鳥や植物の彫刻が施されています。仁王門は、国の登録有形文化財です。